

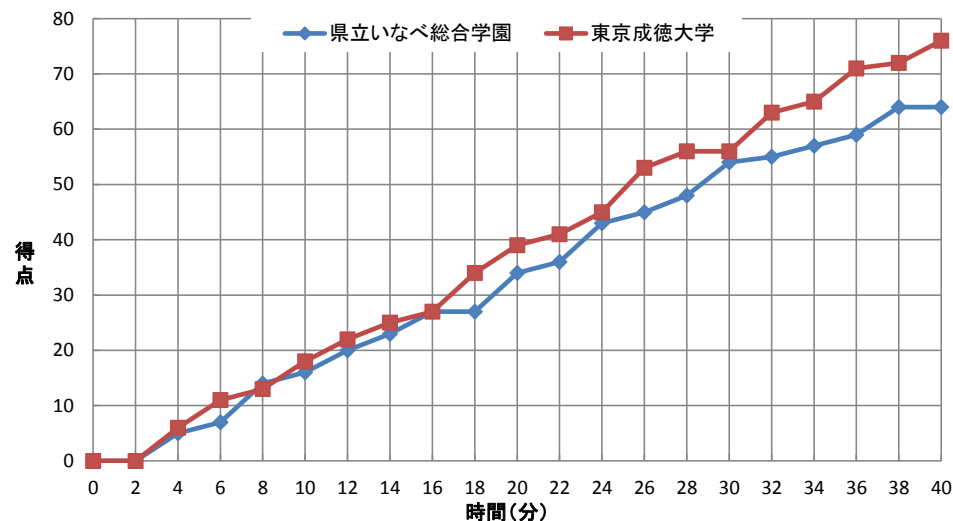


平成28年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
第69回全国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

女子		平成28年8月2日		11:40 開始															
3回戦		広島サンブラザ		C															
県立いなべ総合学園 64		<table border="1"> <tr><td>16</td><td>1st</td><td>18</td></tr> <tr><td>18</td><td>2nd</td><td>21</td></tr> <tr><td>20</td><td>3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>10</td><td>4th</td><td>20</td></tr> </table>		16	1st	18	18	2nd	21	20	3rd	17	10	4th	20	76		◎ 東京成徳大学	
16	1st	18																	
18	2nd	21																	
20	3rd	17																	
10	4th	20																	
(三重県)				(東京都)															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則						
* 4	橋本 椋	16	1	5	3	2	* 4	小沼 康乃	5	1	1	0	2						
* 5	蛭川 文香	9	2	1	1	0	5	坂牧 祐里	-	-	-	-	-						
* 6	満仲 菜南	10	0	5	0	2	* 6	神崎 璃生	9	2	1	1	0						
* 7	平野 ルミ	13	1	4	2	2	7	菅野 恵	-	-	-	-	-						
8	若原 伊織	8	0	4	0	3	8	濱西 七海	14	4	0	2	1						
9	大白 彩未	-	-	-	-	-	* 9	植松 莉佳	18	0	8	2	2						
10	中尾 紀香	-	-	-	-	-	* 10	清水 智央	13	0	6	1	4						
11	伊藤 菜々子	2	0	1	0	1	11	小笠原 彩香	-	-	-	-	-						
12	田中 佑奈	-	-	-	-	-	12	木村 亜美	0	0	0	0	1						
* 13	加藤 美夕	0	0	0	0	2	* 13	大原 咲織	17	0	8	1	2						
14	橋本 亜耶	6	0	3	0	3	14	五老 アミナ	-	-	-	-	-						
15	奥村 優花	-	-	-	-	-	15	佐藤 理映	-	-	-	-	-						
コーチ	桜井 則之					0	コーチ	遠香 周平					0						
Aコーチ	佐藤 祐佳						Aコーチ	天野 佳代子											
合計		64	4	23	6	15	合計		76	7	24	7	12						
主審: 白川一樹																			
副審: 山口勝真																			

得点経過



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	18:07	:	26:44	33:04	38:43	:	:	:	:
TeamB	13:36	:	37:52	39:54	:	:	:	:	:

〔戦評〕
粘り強い守備と素早い攻撃で勝ち上がった三重代表いなべ総合学園高校と、高い総合力を誇るシード校東京成徳大学高校との女子3回戦。
第1P、両チームともにハーフコートマンツーマンでゲームスタート。両チーム硬さが見られるなか、いなべ総合#4がピックアンドロールから得点し、ゲームが動く。高さに勝る東京成徳はインサイドを起点に内外バランスよく加点、対するいなべ総合も出足の早いディフェンスと、ミートからのドライブインで身長差を感じさせることなく一進一退の攻防を繰り返す。16対18と東京成徳2点リードで第1P終了。
第2P、東京成徳#6、#12が激しいボールマンディフェンスでいなべ総合を苦しめる一方で、いなべ総合も2-1-2ゾーンに変化し、互いに守り合う我慢の時間が続く。残り2分半、東京成徳#13、#9の連続得点でこのゲーム最大の9点差がついたところで、いなべ総合たまたまタイムアウト。一転ここから巧みなパスワークから#5の3P、#11の得点でいなべ総合が踏み張り、34対39の5点差として前半終了。
第3P、いなべ総合はマッチアップゾーンから流れを掴み、#6、#4の連続得点で2点差まで詰め寄る。対する東京成徳も#8の連続3P、#13のゴール下の得点で譲らない。残り3分、東京成徳#4が3Pを決め、45対56の11点差にしたところでいなべ総合がすかさずタイムアウトを請求する。またいなべ総合がタイムアウト明けから流れを引き戻し連続得点、このピリオドを制して54対56とし、勝負の第4Pへ。
第4P、東京成徳が仕掛ける。#10の連続得点から、オールコートマンツーマンプレスで試合のトーンを一変させ、55対65と一気にリードを拡大する。いなべ総合は#4がリバウンド、ドライブインと獅子奮迅の働きで、なんとか踏みとどまる。残り2分、試合を決めたい東京成徳は痺れを切らしタイムアウト。タイムアウト明けからいなべ総合は、1-2-1-1ゾーンプレスで再び状況を打開しようとするも、東京成徳は落ち着いてボールを運び、64対76で東京成徳がベスト8へ進出した。東京成徳の強さ、巧さを感じる一方で、いなべ総合の確かな技術に裏打ちされた粘り強さが印象に残る、インターハイの舞台にふさわしい好ゲームであった。

戦評: 大瀬 元貴

記録: 海田高校